

## タスクシフト/シェアを実現させるための具体的な方策とその効果 ～診療放射線技師を例として～

分担研究報告書 (令和5年度)

研究分担者 小野 孝二 (東京医療保健大学 教授)  
研究分担者 岡本左和子 (奈良県立医科大学 教育開発センター 特任講師)  
研究協力者 板橋 匠美 (東京医療保健大学 総合研究所 客員准教授)

### 研究要旨

2024年4月に医師の時間外労働の上限規制が適用されることとなり、その施行に向け、方策の一つにタスクシフト/シェアが挙げられた。医師の就業時間の短縮実現は、各医療機関の業務改善と言ってもよく、これまでの業務の見直し、教育とトレーニング、医療安全の見直しなど広範囲に亘る業務システムの変更や新しいシステムの導入が求められる。本分担研究では、汎用性が高く、実績がみられるタスクシフト/シェアの取り組みとして、診療放射線分野でアプローチの異なる2つの医療機関を例として、それぞれの取り組みを報告する。

### A. 研究目的

#### 【背景】

令和3年7月9日医政発0709第7号「臨床検査技師等に関する法律施行令の一部を改正する政令等の交付について」が厚生労働省医政局長より発令され、放射線部門でのタスクシフト/シェア推進のために診療放射線技師は新たな業務範囲拡大に取り組む必要となった。その取り組み方には各医療機関の実情に合わせて多様性があると考えられる。

#### 【目的】

本分担研究では汎用性の高い2つのアプローチを紹介し、各医療施設に向けてタスクシフト/シェアを推進させるため、具体的に提示できる一つの方法を示すことである。

### B. 研究方法

診療放射線技師のタスクシフト/シェアを例として、取り組みのアプローチが異なる大学病院と地域の拠点病院を視察した。

対象：診療放射線技師

研究協力：熊本大学病院、済生会川口総合病院  
(詳細は両医療機関視察の報告書参照のこと)

上層部が意思決定を行い、現場の医療従事者に展開・指示を行う意思決定スタイル(トップダウン)から始まった熊本大学病院と病院の経営陣をリーダーとしてチームは形成されているが、現場の医療従事者に裁量・意思決定権を与え、医療経営の視点からタスクシフト/シェアを見つめなおし、実現を現場から上がってきた提案を経営陣などの病院における上層部が承認する意思決定スタイル(ボトムアップ)に近い済生会川口総合病院を視察した。

### C. 研究結果

本研究の両医療機関ともに、医師の業務改善及びタスクシフト/シェアで医師の就労時間短縮には明らかに実績を示した。また、タスクシフト/シェアの直接の目的ではないが、新たな手技、(静脈路確保業務等)で、診療放射線技師のモチベーションと安全管理への意識が大きく向上した。医療の質と安全、病院経営、法令改正、システム更新、病院機能評価など、あらゆる課題に対して、部門一丸となって取り組むなど、結果として組織力・チーム医療の強化にもつながった。

### D. 考察

医療の質と安全、病院経営、法令改正、システム更新、病院機能評価など、あらゆる課題に対して、部門一丸となって取り組むなど、結果として組織力・チーム医療の強化にもつながった。多職種ミーティング（医師・診療放射線技師・看護師）の実施やOJTでの交流が増したことで、職種間のコミュニケーションが良好になり、互いの職能に敬意を示して接することができるようになったため、相乗効果が出たと考えられる。

#### **E. 結論**

医療機関の規模や機能などはそれぞれに異なるものの、タスクシフト/シェアの体制構築にはどちらも汎用性が高く、事情が異なる各医療機関の参考にできる取り組み例であると考ええる。

**F. 健康危険情報** なし

**G. 研究発表** なし

**H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）**

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし